



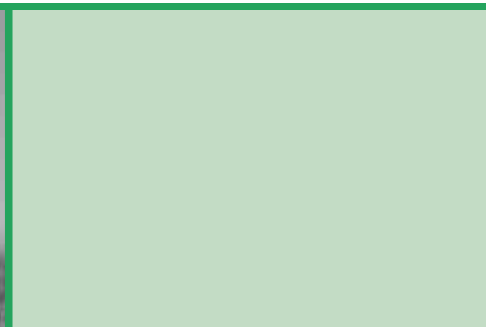
『いつまでも住み続けたいと思うまち』を目指して

第五次土岐市総合計画の基本計画見直しに伴う市民意識調査

まちづくりを進めていくための指針となる第五次総合計画は、平成18年度から計画期間が始まり、市では総合計画に基づいた市政運営を行っています。

現在、平成22年度で5年が経過する第五次総合計画の見直し作業を進めています。そこで、市民の皆さんの意見を計画の見直しに反映するため、平成22年1月に市民意識調査を実施しました。

今回の特集では、調査結果の概要を、5年前の計画策定当時（平成16年7月）に行った調査結果と合わせてお知らせします。調査にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



土岐市 総合計画 とは

総合計画は、市の将来像や、これを実現するための基本的施策を明らかにした上、教育・文化・福祉・医療・産業・環境・防災・道路・行財政運営など、各分野の具体的な施策の方向を示し、市民と行政が一体となつてまちづくりを進めていくための指針となるものです。

第五次土岐市総合計画は、市役所玄関ロビーの情報コーナーや図書館で閲覧できるほか、市のホームページからもご覧いただけます。

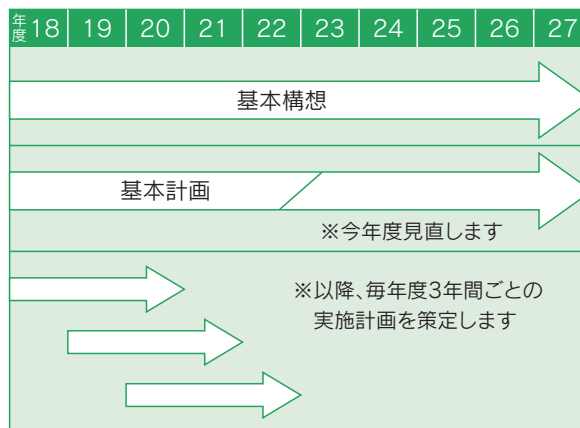
計画の構成

▼**基本構想** まちづくりの理念や将来都市像と、それらを実現するための施策の大綱を示すもので、総合計画の基礎となるものです。

▼**基本計画** 市政の各分野における具体的な施策展開の方向と達成すべき施策目標を定めたもので、計画期間は平成18年度からの10年間とし、5年目となる今年度に見直しを行います。
※今回の市民意識調査は、この基本計画の見直しに皆さんの意見を反映させるために行いました。

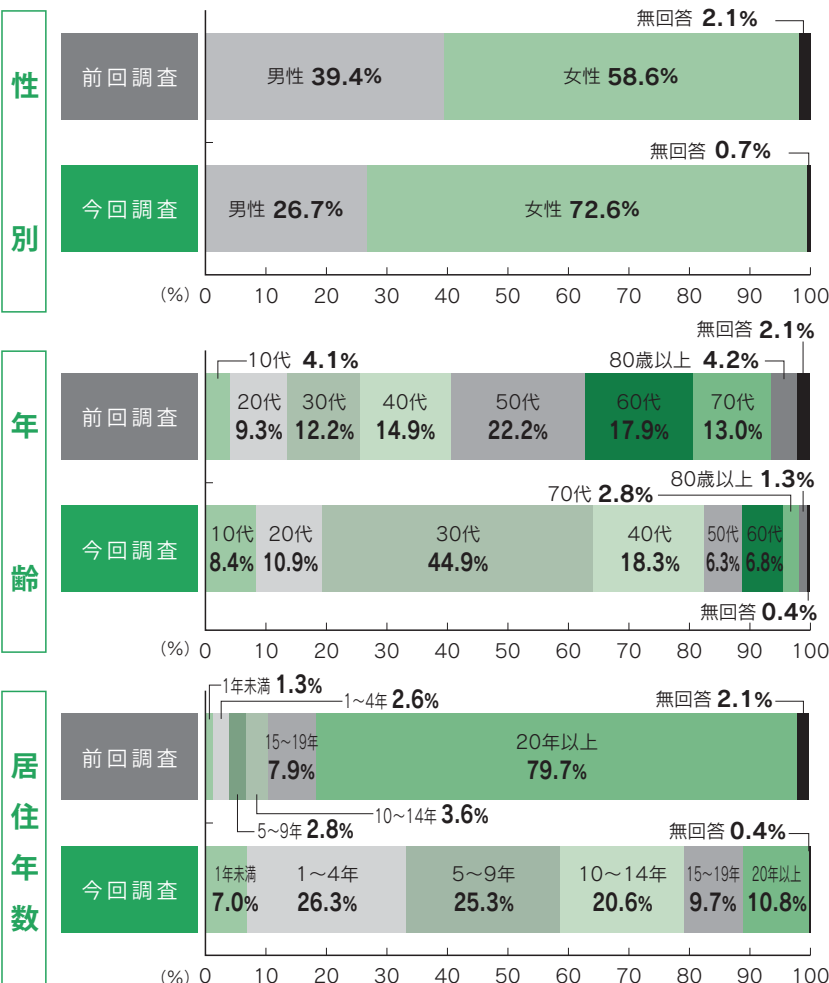
▼**実施計画** 基本計画で定められた施策について、今後3年間で実施する具体的な事業内容を定めたもので、予算編成など、市の経営方針の指針となるものです。

計画の期間

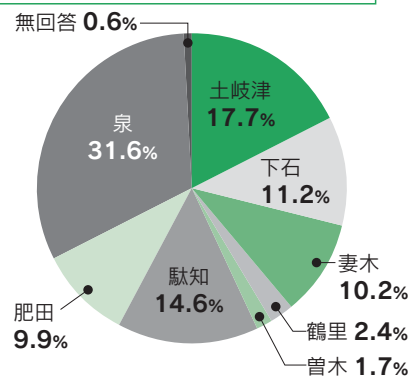


第五次土岐市総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成されています。

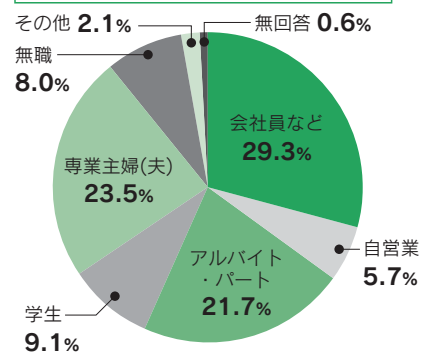
第五次総合計画の構成



居住地区



職業

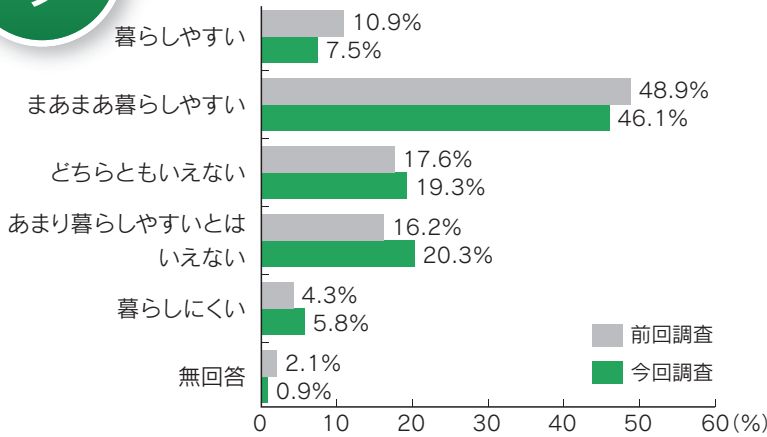


調査対象：15歳以上の市民（無作為抽出）
調査人数：3,000人
回収結果：1,087人（回収率：36.2%）
※小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、百分率の合計が100.0%にならないことがあります。

市民意識調査の結果「回答者について」

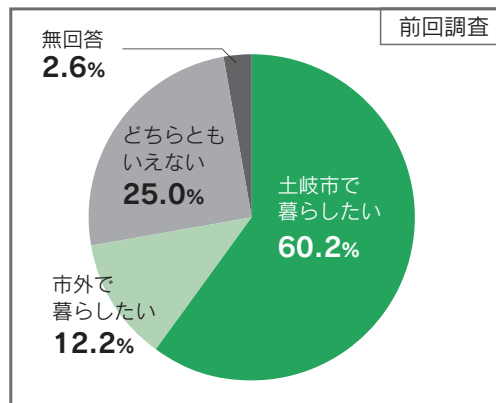
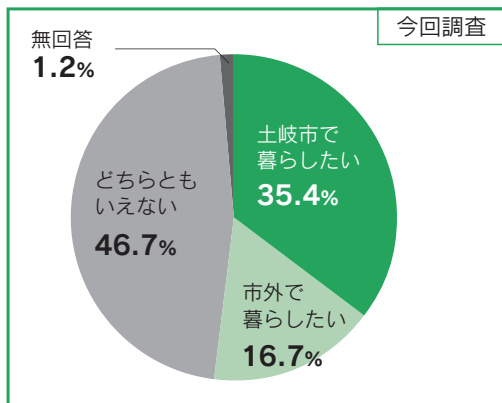
土岐市の暮らしやすさ

「暮らしやすい」「まあまあ暮らしやすい」を合わせると8割以上の市民が、土岐市は暮らしやすいと評価しています。その一方で、3割弱の市民は「暮らしにくい」「あまり暮らしやすいとはいえない」と評価しています。前回調査と比較すると「暮らしやすい」と評価する人が減り、「暮らしにくい」と評価する人が増えています。



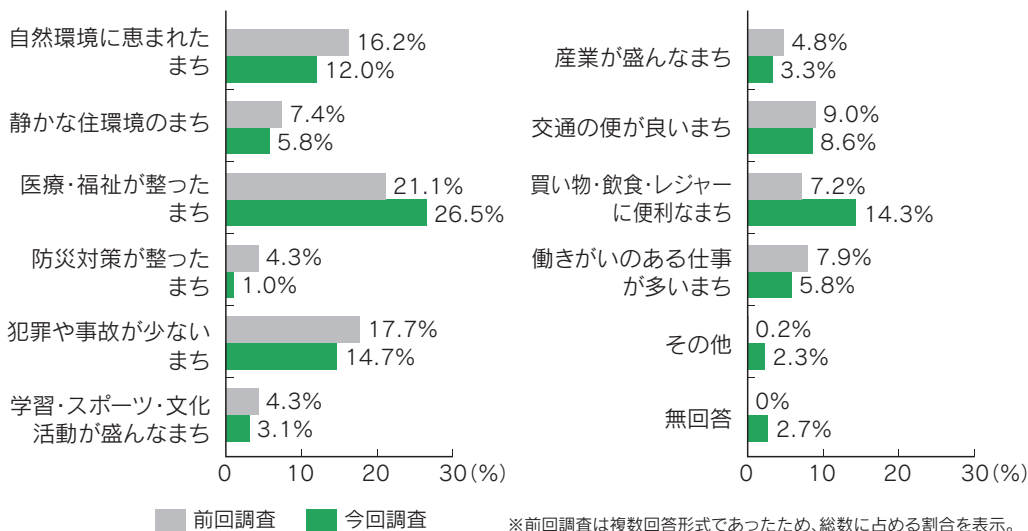
これからも住み続けたいか

今後とも土岐市で暮らし続けたいと回答した人は35.4%でした。



どんなまちに住みたいか

住みたいまちは、居住地区・年齢・性別を問わず「医療・福祉が整ったまち」がもっとも多く、「犯罪や事故が少ないまち」「買い物・飲食・レジャーに便利なまち」が続きました。



※前回調査は複数回答形式であったため、総数に占める割合を表示。

満足・重要	+ 1.0
やや満足・やや重要	+ 0.5
どちらともいえない	0
やや不満・あまり重要でない	△ 0.5
不満・重要でない	△ 1.0

全回答者の平均点を指数とします

指数の算出方法

個別の施策50項目について、満足度と重要度を伺いました。満足度と重要度について点数化し、その平均点を満足度指数・重要度指数として算出した結果、上位および下位の施策5項目は、次の通りとなりました。

個別施策に対する
満足度・重要度

市の取り組み全体に対する満足度

「満足」と「やや満足」を合わせて16.4%の人が満足と評価していますが、「やや不満」「不満」を合わせて不満と評価した人は27.6%でした。前回調査と比較すると、不満と評価した人の割合はほぼ同じでしたが、満足と評価した人の割合は下がっています。

5年前と比較した満足度

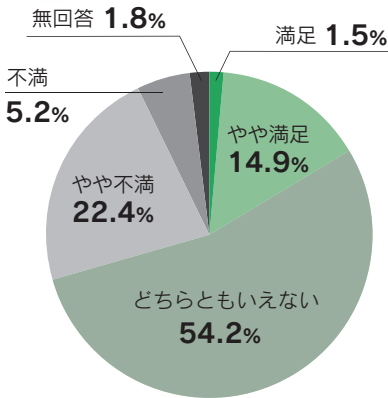
市政に対する満足度は、第五次総合計画を策定した5年前と比較すると、「良くなった」「まあまあ良くなった」を合わせて、良くなったと答えた人の割合が、「悪くなった」「やや悪くなった」を合わせて、悪くなったと答えた人を上回りました。

行政サービスと市民負担のあり方

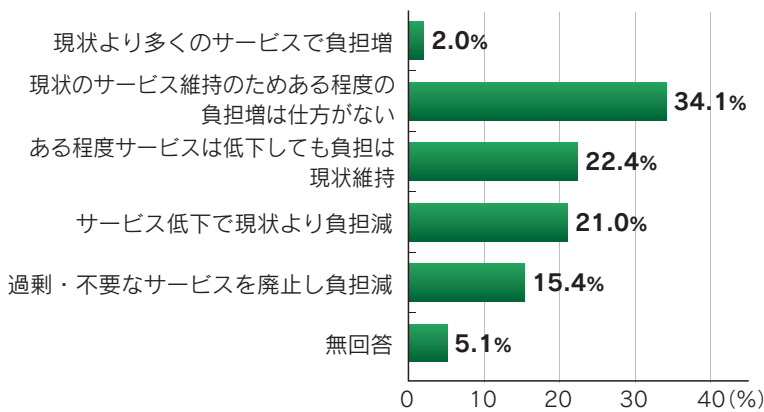
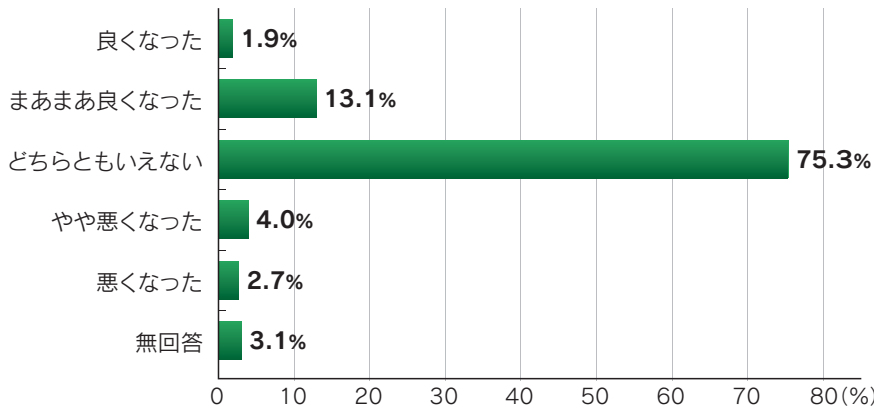
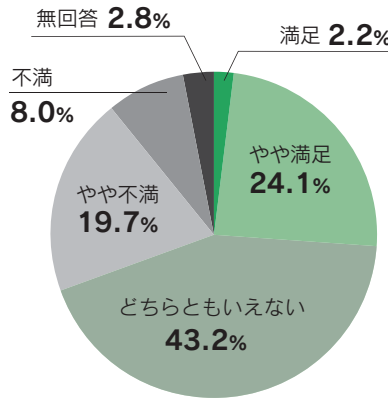
今後の財政状況は、少子高齢化など社会情勢の変化により厳しさを増すと予想されます。そこで、市民負担とサービスのあり方について伺いました。

「現状のサービス維持のため、ある程度の負担増は仕方がない」が最も多く、「ある程度サービスは低下しても負担は現状維持」が続く、現状を維持する意見が5割以上と多くなりました。

今回調査



前回調査



重要度の高い施策

今回調査	前回調査
医療機関の充実	1 救急医療体制の整備
救急医療体制の整備	2 医療機関の充実
防犯・治安対策	3 防犯・治安対策
保健・健診サービスの充実	4 ごみ処理対策
学校教育の充実	5 消防体制の整備

満足度の低い施策

今回調査	前回調査
土岐市駅周辺の整備	1 土岐市駅周辺の整備
雇用環境の充実	2 街並み・景観の整備
公共交通網の整備	3 陶磁器以外の産業の振興
観光の振興	4 商業の振興
商業の振興	5 公共交通網の整備

満足度の高い施策

今回調査	前回調査
上水道の整備	1 上水道の整備
ごみ処理対策	2 消防体制の整備
下水道の整備	3 資源のリサイクル対策
消防体制の整備	4 ごみ処理対策
資源のリサイクル対策	5 し尿処理対策

市民意識調査では、自由記述で市民の皆さんからたくさんのご意見をいただきました。その中から、特に多くいただいたご意見について、市の回答とともにお知らせします。

教育・文化

学力向上対策として
市の取り組みについて

意見 他地域ではゆとり教育の見直しが行われ、隔週土曜日に小中学生の通学が始まっているところもあるようです。県や地域による格差をなくし、平等の教育を行ってほしいです。

意見 公民館などの講座は昼間のみのものが多いので、夜間の教室を開いてほしい。また、年配向けだけではなく、託児付きの講座など、若年層を対象にしたものも増やしてほしい。

は、音量を上げて放送をします。昨年までの3年間に、聞こえにくい地域を解消するため、防災無線子局25カ所の新設を行い、市内156カ所に防災無線子局を設置しました。それでも聞こえにくい地域の方には、戸別受信機を設置させていただきました。

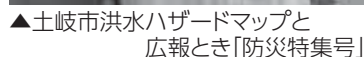
また、放送内容をメールで配信するサービスや、音声を聞くことができる電話サービスも実施しています。

回答 本市では、学ぶ意欲を高めることや、仲間とかわり合いを高め合う中で「基礎的・基本的な力」を身に付けることができるように、授業研究などを大切にして教育実践に取り組んでいます。また、本市独自の取り組みとして「学校所員会」の活動の中で、全国学力・学習状況調査と県実施の学習状況調査の結果

回答 公民館では、それぞれの地域で要望の高い、特色ある講座を開催しています。開催時間について、夜間開催の講座のご希望が多くあれば、今後の企画に反映させる必要がありますと考えています。要望の多い講座については、講師・会場などの調整が必要です、開催数を増やすなど、今後、今後の検討課題とさせていただきます。



▲公民館講座の様子



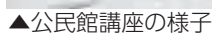
市ホームページ

➡

「おすすめコンテンツ」

➡

メールでお知らせ



総合病院の充実について

意見 総合病院の縮小が気になります。常勤医師が増えることを望みます。また、総合病院でも子どもが産めるように産科を設置してほしい。

回答 ここ数年の常勤医師数は45人前後で推移しています。今後も諸制度を活用しながら、医師の確保を図ります。

また、産科医師については、東濃広域における取り組みも視野に入れ、確保に努めます。



保育園および幼稚園について

意見

① 保育園2年、幼稚園1年といった制度を見直してほしい。

② 保育園で年長までの預かり、年少からの幼稚園の入園を市内全域で実施してほしい。

回答

①・② 昨年度、土岐市公立保育園等再編計画を策定しました。この中で、3歳以上の子どもは保護者の就労などにかかわらず、教育・保育を受けられる体制を構築することを目指しており、中学校区に最低1カ所、3歳から5歳までの子どもを対象にした幼保一体型施設を設置することを整備方針としています。整備に当たっては厳しい財政事情ですので、現有施設を有効活用しながら段階的に進めていきます。

意見

近隣の市で土岐市だけ私立幼稚園に通園する際の保育料の助成がないので考えてほしい。

回答

私立幼稚園の通園費の助成については、入園を希望する5歳児には市立幼稚園に通えるよう配慮しているため、個人の希望により他市の私立幼稚園へ通園されている方への補助金はございません。

なお、補助金がないことの説明を、今年度の幼稚園入園案内から明記します。



観光PRについて

意見

観光産業は今やどんな地域でも必須です。ところが、土岐市はあまり力を入れていないように感じます。観光スポットはいろいろあるのに、PRに消極的な印象がします。

回答

市内には歴史ある美濃焼に関する観光スポットのほか、自然・文化に関するスポットもあり、パンフレットを作製しPRに努めています。また、各種まちづくり団体などに対する補助やイベントに対する補助、土岐プレミアムアウトレット内に土岐コミュニケーションセンターを設置してPRをするなど民間主導の産業観光をバックアップしています。また、近年は土岐市の特産品開発や東濃5市での広域観光に取り組むなど、観光に対する課題を踏まえた事業を実施しています。

問い合わせ

総合政策課(内線212)

